

佛教大学広報誌

B-ism

佛教大学

No.10

B-ism
No.10

発行日
2015年(平成27年)6月12日

発行者
田中 典彦

編集者
広報委員会

編集・発行
佛教大学広報課
〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96
TEL 075-491-2141(代表)
www.bukkyo-u.ac.jp/

撮影場所 紫野キャンパス

巻頭特集 | スペシャルインタビュー
2 夢が実現できる「共育大学」をめざして

6 hot-TOPICS・大学の動向
紫野キャンパス1号館完成!

8 「密着! 緒方ゼミ」教員・研究紹介 | 社会福祉学部 社会福祉学科
緒方 由紀 教授

10 学生編集室の窓 | 学生防災サークル「FAST」

12 B・L「研究報告 | 社会学部 現代社会学科 大谷 栄 准教授

14 クラブ・サークル見聞録 | 社会学部 歴史学科 具英幸教授
「サッカーチームのユニフォーム」

15 Favorite「先生のお気に入り」 | 社会学部 歴史学科 具英幸教授
「サッカーチームのユニフォーム」

16 輝きClose Up 活躍する学生たち

17 Listen-UP OB・OG訪問

18 hot-TOPICS・大学の動向

20 第8回佛教大学小学生俳句大賞ほか

22 B・In-formation みんなの掲示板

巻頭特集 | スペシャルインタビュー
Special Interview

「共育大学」をめざして 夢が実現できる

今年4月、本学の新たな学長に田中典彦前仏教学部教授が就任した。佛教大学で教鞭をとって40年。「佛大に恋をしている」と語る田中新学長に、大学への思い、教育・運営方針、そして夢を語ってもらった。(文中敬称略)



まずは眼をひっくり返して、自分を見つめることから始める

―新学長への選出、就任から現在までの心境を聞かせてください。

大役を仰せつかり、恐縮しているところです。実は今年3月で本学を定年退職したのですが、3月31日の午前に退職の辞令をいただき、午後から学長を拝命しましたので、退職の気分を

味わったのは2時間半ほどでした(笑)。およそ40年にわたって佛教大学で教員を務めてきましたので、大学に対する思いは人一倍強いと自負しています。この大学の魅力をもう一度認識しなおして、未来へ展開していくこと、そして自分の描いている夢を実現させていきたいという気持ちでいっぱいです。

―学長の描く夢とは。活気あふれる大学、社会

に貢献できる人材の育成などさまざまにあります。一番は私の夢、学生の夢、教職員の夢を、互いに育みながら叶え、喜びに変えられる大学、「共育大学」の実現です。人間は幸せを求め現世に生きています。

幸せとは、心の中の「こんなことをしたいな」「あんな人になりたいな」といった夢を、姿かたちあるものとして実現するということ。大学に関わる皆さん全員が、夢を叶えられる場にして

きたい、それが私の夢であり大学の夢なんです。その実現が皆さんの喜びにつながるかと信じています。

ただ、学生の中には自らの夢に気づいていない人が結構多い。ですから今年度の入学式で「大学に入ったらずすは目の玉をひっくり返してください」と、お願いしたんです。生まれてからずっと外側を向いている眼を自分の方に向けて、自身の中にある「どう生きたいか、生きていこうとする

のかを見いだしてください」と。私と同じように、皆さんにも夢を抱いてほしいんです。

―具体的な教育理念や指針という点はいかがですか。

ご存知のとおり本学は仏教精神を建学の理念としていますが、私が大切にしていきたいのは「転識得智(てんじきとくち)の教です。字の如く「知識を転じて、智慧を得る」という意味で、身につけた知識を智慧に変



える、つまり判断力や行動力といった、生きる力に変えられる教育を展開してきたいと考えています。生きる力とは「きちり」と生活する」と換言できます。この場合の「生活」は、朝起きて、歯を磨いて、仕事へ行ってというようなそれではなく、生きている自分を、人生や社会において、さらには人々のために活かすということですね。その力を「転識得智」によって体得してもらいたいのです。

学生には、就職活動の面接で面接官に志望動機を尋ねられたら「生活をするため」と答えるように言うこともあるんですよ。「この会社で、生きている自分をフルに活かしていきたいんです」とね。そう自信を持って言える学生を育てたいと考えています。

「教職員に求めることは何でしょうか。」

教職員にはまず、自身の研

んでもらいたいですね。学生には、学ぶことばかりを強調するつもりはなへ、「遊び」「つまり心に余裕をもって物事にあたってほしい」と考えています。一瞬立ち止まって深呼吸できる場所が本学にはありますので、そこで大いに遊んでください、そして自分の夢を実現するために足りない部分は学んでください、そして卒業時には社会に向かって大



田中 典彦(たなか のりひこ)
1944年、大阪府生まれ。大阪教育大学卒業後、佛敎大学大学院博士課程満期退学。76年に佛敎大学専任講師、82年に同大学助教授、94年に文学部教授、2009年に仏敎学部教授に就任。これまでに四條センター所長(02～05年)、総合研究所長(05～07年)、副学長(07～09年)など本学の要職を歴任。15年4月より現職。専門はインド六派哲学、原始仏敎思想、仏敎と自然など。

究の楽しさを学生に示してくださいとお願ひしています。いかなる研究も、その成果は社会や人々に還元されなければなりません。資料にあまり解明していく喜びや楽しさの、おすそ分けこそが、学生への還元になるのではないのでしょうか。加えて各学部・学科の魅力や方針を再認識して、結果をカリキュラムに反映していただきたい。

学生とともに、我々教員

きく翔(と)んでください。「遊べ、学べ、翔べ」というスタンスです。

「学長の専門について教えてください。」

インド哲学、その中でも六派哲学、特に自然哲学の派であるヴァイシェーシカ学派を取り上げ、根本経典である『ヴァイシェーシカ・スートラ』と、数々の注釈書をもとに、学派がどのよ

も自らを見つめなおし、夢を実現させて社会にお返ししていかなければならない。これはまさしく「布施」の考え方です。得たものを物惜しみせずに他の人に与える、教育は「最高の布施」なんです。私自身、研究者である前に教育者でありたいと思っています。職員にも佛敎大学で自分を活かして働く楽しさを、言葉や態度で示してくださいと伝えていますが、根底にある

うな思想から、どのように展開してきたかを歴史的な観点も含めて研究してきました。当然この研究にもいろいろ楽しさがあるわけ

ですが、例えばインド哲学

を追求したうえで仏教に目を向けてみると、仏教の研究者とは異なる解釈や理解が生まれてくる。同時に共通点も見いだせるわけで、そうなるかと仏教について学ぶ学生に対して別の視点を与えることができるんですね。自分の求めてきた成果が学生の思考をくすぶって

思いは同じです。通信教育課程においても、長年のノウハウを活かした、あらゆる人がいつでもどこでも学べる本学の通信の魅力も、教職員だけでなく全国の卒業生のパワーも結集して活性化していきたいと考えています。

「遊べ、学べ、翔べ」というスタンス。そして、顔が見える学長でありたい

いくのがわかる、この瞬間が楽しいですね。

「今年度も引き続き授業をされると聞いています。」

私は、学生が好きで授業が好きなんです。ありがたいことに、春・秋1科目ずつ持たせていただけのことにまりました。秋学期の「佛敎大学の理念と歴史」という講義では、大学が目指している人間形成の意図がどこにあるかを理解してほしい。そして自分自身が佛敎大学で何を身につけ、どの

「開学百周年を機に始まった、紫野キャンパスのリニューアルも最終段階ですね。」

素晴らしいキャンパスへとリニューアルしていただきました。1号館Ⅱ期工事完了後の開扉式では関係者の皆さんに、「描いてきた夢が実現しました。最高の喜びです」と感謝の気持ちを伝えました。大学の夢を実現するための環境が整ってきたわけです。特に各所の庭が素敵なんです。楽し

ように成長し、いかにして社会へと出て行くことするかについて自ら考え、それを表明できる力を培ってもらいたい。宗敎教育センター長も兼任させてもらっているのですが、そちらでも仏敎的な情操教育や行事に学生とともに積極的に参加していきたいと思っています。

私は「顔が見える」学長でありたい。そして、学内外に佛敎大学の魅力を知ってもらいたい、そんな夢も持っているのです。

一問一答! 田中新学長はどんな人?

Q1.趣味は?

A.草花の世話です。何気なく咲く花が可愛いくて。自宅には温室もあって、休みの日はかかりきりですね。

Q2.尊敬する人物は?

A.ラビンドラナート・タゴール。インドの詩人であり、哲学者、美術家、音楽家でもあった人で、アジア人初のノーベル賞(文学賞)受賞者です。

Q3.好きな音楽は?

A.カントリー&ウェスタンです。こう見えても学生の頃はスティールギターを演奏していたんですよ。

Q4.好きな本は?

A.漫画『ブッダ』です。手塚治虫さんの大作で、意外かもしれませんが最高のブッダの伝記だと思っています。

Q5.好きな言葉は?

A.「今に心を」。遊びでも仕事でも勉強でも心をかよわせて取り組めば、楽しくなり満足感が得られると信じています。

Q6.学内で好きな場所は?

A.やっぱり花のある場所ですね。紫野キャンパス11号館の中庭など、佛敎大学には素敵な花がたくさん咲いていますよ。



紫野キャンパス1号館完成!

2012年の開学100周年記念事業として始まった紫野キャンパスリニューアル。新館(1号館)の工事が完了し、学生生活をサポートする設備がますます充実。「新しい紫野キャンパス」がスタートしました。



3F 屋上庭園

自然と調和した屋上庭園は「広がる空と風」「眺望と開放感」が感じられます。癒しと集いの空間です(7月頃開放予定)。



ラウンジ

移動可能な机とイスを配置したラウンジ、畳のラウンジなど、6カ所すべてが異なるスタイルです。ぜひ、足を運んでみてください。



2F 2階事務局

動線を考慮し、学生支援部署を同じフロアに。利便性が向上しました。

新1号館は機能性の追求はもちろん、コミュニケーション空間も多く設けています。今回はその中でも、特に注目のスポットをPickupしてご紹介します。



教室

演習や講義形式など幅広い授業に対応できる大小様々な教室を備えています。



エントランス

5層吹き抜けのアトリウムに、スクールカラーをあしらった大階段が印象的。自然な明るさと開放感に加え、音の拡散を抑える設計を実現させたことで落ち着いた空間を作り出しています。



トイレ



ゆったりとした空間で、快適性が格段に向上しました。各フロアごとにデザインが異なることも特徴です。女性向けに、パウダールーム・歯磨きコーナーを別で設置しています。



B1F ピアノレッスン室

1号館にはいろいろな特別教室がありますが、ピアノレッスン室もその一つ。各レッスン室入り口のプレートにある譜面をつなげると…?



中庭には人気のセブンイレブンを。軽食や日用品などおなじみのラインナップが揃います。ATMも設置。

中庭

テーブルとイスが多く配置され、食堂とつながったことにより、憩いの場所としての機能が高まりました。リニューアル前より、ステージも見やすくなっています。

リニューアル前の中庭



敷き詰められたレンガはリニューアル前の旧中庭で使用されていたもの。歴史と思い出を引き継ぎ、後世へと伝える配慮と工夫をしています。





Professorial Seminars

主役は学生! 多様な取り組みから 現場で生きる力を磨く

社会福祉学部 社会福祉学科教授

緒方 由紀

「まちづくりを基軸にした社会福祉」の研究を進める緒方由紀先生のゼミ運営は、学生たちが主体。ゼミでの役割を決めるのも、毎回のゼミの記録も、議論のやりとりも、学生が中心になって進めていく。それが卒業後、社会のさまざまな場面で最良の経験になればと考えているからだ。

緒方 由紀(おがた ゆき)

兵庫県生まれ。神戸大学大学院教育学研究科修士課程修了後、自治体での勤務を経て、1999年より本学に赴任。専門は精神保健福祉論、社会福祉方法論。最近の主な著書・論文に、「精神保健福祉に関する制度とサービス」(分担、中央法規出版2015年)、「精神障害者の再定住化の方法と展開」(佛教大学社会福祉学部「社会福祉学部論集」第9号、2013年3月)、「精神保健医療福祉領域における新たな公共性の構築—サービス供給体との関連から—」(佛教大学社会福祉学部「社会福祉学部論集」第7号、2011年3月)、「精神保健福祉領域における新たなサービス供給体制論の検討2—個の再生とレジリエンス—」(佛教大学社会福祉学部「社会福祉学部論集」第6号、2010年3月)など。

社会福祉学科4回生の社会福祉学演習では、4年間のまとめとして「ゼミ論文」の作成に取り組んでいる。今はテーマの絞り込み、先行研究・文献資料の読み込み、研究方法の確定といった段階。このゼミでの共通テーマは「まちづくりの課題と方法」。緒方先生自身が研究の芯に据えてきた「まち・地域で生きにくさを感じている人たちが抱える課題や、その人たちの機能的・制度的な課題」を念頭に、各自テーマを選び進めている。まちづくりの課題に興味を持ち、無縁社会の問題に挑み、やがては福祉関係の仕事に就きたいと語るゼミ生を筆頭に、「老老介護の現状と家族支援」「パワハラ・障害について」「精神科医療の歴史と問題」「コミュニティワークの技法」など関心は、多岐にわたる。

この日は、1人のゼミ生から自身のテーマに関する報告があったが、関心のある分野が「行政と社会福祉協議会の関係性」と「障害者雇用における合理的配慮」と2つあり、迷っているとのことだった。傍目から見れば、教員がアドバイスすれば、と思うのだが、先生は「今の報告を聞いてコメントや質問をどうぞ」と、他のゼミ生に発言を促す。すると「前者はもう少しテーマの絞り込みが必要」「後者のテーマの結論が気になる」「社協に実習に行った立場として、今の行政との関係には確かに疑問」「採用後に障



害を負った人への雇用者側の配慮はどうなっている?」といったやりとりが続いた。緒方先生のめざす学生主体のゼミの一端がここにある。他者との対話を重ね、解決策を見出したり、自分とは異なる発想に気づいたり、一人ひとりが参加の仕方を工夫しながら進めるゼミ運営だ。「グループの形成や人との適度な距離感について考える機会にもあります」。

今年提案型の人が多く、あるゼミ生が研究テーマと関連して「LGBT」

について発表、それを聞いていた他のゼミ生から、皆で率直に語り合いたいと声があがったという。「外国では寛容なのに日本では受け入れられない理由をさぐる」「当事者の声を聞くことが必要」「訴訟判例を調べると参考になる」といったアイデアが出され、テーマを掲げた本人は整理をして後日あらためて皆に投げかけることになり、今の形が出来上がってきた。ディベート、裁判の傍聴、コミュニティレス

トランでの食事会等も、ゼミ生主導で現在進行中だ。学生主体のゼミ。その中で、緒方先生は情報提供や文献の紹介、ディスカッションの論議提示、ものの考え方をレクチャーはするが、自身が考えて、答えを出すという前提は崩さない。小学校の教員をめざすゼミ生は、緒方先生の「考える力」を養成する教育姿勢を見習いたいと話す。「4回生は就職活動や採用試験、国家試験の準備にと忙しい」。事実、13名いるゼミ生の半数以上が、医療機関での実習や教育実習を控える。また、テーマも進路希望も多様な中で、みんなが臆することなく参加できるゼミのあり方について、いつも悩むという。「わずか1年ですが、



関心のある 哲学テーマは?

ある日の 緒方ゼミ



ゼミの冒頭は、意外にもゼミ生2人による『日本精神科医療史』『藤子・F・不二雄 少年SF短編集』『哲学用語図鑑』『察しない男 説明しない女』これらの本の紹介が行われた。自分の選んだ本の魅力を、短時間ながら存分にプレゼンテーションしていく。「お互いを知るきっかけになれば」。どうやら本のプレゼンは、ゼミ生の発案で始まったらしい。

男女の言動におけるギャップを描き近頃話題となった『察しない男 説明しない女』のプレゼンで、「男は謝れない、女は忘れない」という一節を披露すると、納得する人、しない人双方入り混じった笑いが起こった。また、『哲学用語図鑑』紹介の後、緒方先生から「自身の哲学のテーマは?」との質問が。そうきたか、という感じでゼミ生は一瞬たじろぎながらも、「二項対立」を挙げた。「どんな意見の対立も、善か悪かを性急に求めるのではなく、やりとりを重ねる中で真理にたどり着くことが大事なのではないかと思う」との主張に対し、緒方先生も首肯。「ゼミのテーマとも関連して、まちにはそれぞれいろいろな人のさまざまな考え方、生き方がある。完全に一致は難しいけれど、それぞれ認めあう部分を見つけ、いかに合意形成できるのか、さぐることもある」と語り、続いてまちの中での「居場所論」について問題提起がなされた。

1年かけての雰囲気づくりも大事にしたい。学びの成果を論文として残すと共に、将来、対人援助職として現場に立つ人々には、学んでほしいことがあるという。「ソーシャルワーカーも教員も、多くの出会いと相互作用によって成立する仕事。そのためにはまず他者への関心をもつことと多様な意見の中でも、自分が他者を受容できる感性が必要だ。他人と関わる機会を拒まず、分野や世代を超えた人間関係をつくっていかなくてはならない」。緒方ゼミが果たす役割はかなり多く、そして大きい。

なうな掌話 その十五

いざという時に! 防災ずきん



地元の女性会と一緒に作ったオリジナル防災ずきんです。タオルに下着や常備薬などを入れたポケットを縫い付けて仕上げました。いざという時、すぐに被れるように枕元に置いてほしい防災グッズです。避難してから必要なものをすぐに取り出せるよう工夫しました。



FASTは、「Fire And Safety Team」の略で、京都府消防安全課の呼びかけで発足した学生消防・防災サークルです。学生が地域防災に関心をもち、その担い手になることを目的にしています。初年度の2014年は、佛教大学を含めた府内4大学で活動が始まりました。

4 大学合同で図上演習



毎月1回、ミーティングを行い活動計画について考えています。本学関係者だけでなく、FASTに関係する行政職員の方や地域自治会の方もしばしば参加し、色々な視点から活動について議論できる場になっています。



FASTの活動-3 ミーティング & 合同演習

ミーティング

毎月1回、ミーティングを行い活動計画について考えています。本学関係者だけでなく、FASTに関係する行政職員の方や地域自治会の方もしばしば参加し、色々な視点から活動について議論できる場になっています。

FAST (ファスト) とは

FASTは、「Fire And Safety Team」の略で、京都府消防安全課の呼びかけで発足した学生消防・防災サークルです。学生が地域防災に関心をもち、その担い手になることを目的にしています。初年度の2014年は、佛教大学を含めた府内4大学で活動が始まりました。「佛教大学FAST」は2014年4月に活動を開始、現在のメンバーは約20人です。紫野キャンパス周辺の地域防災に目を向け、地元消防団と一緒に防火パトロールをするなど地域の人々と防災について考えています。地元消防団の協力を得ながら活動する防災サークルは全国でも珍しい例です。

FASTの活動-1 パトロール

「火の用心」呼びかけ



毎月2回、京都市無火災推進日に地元、楽只消防分団と地域内を巡回して、「火の用心」を呼びかけています。地味な活動だと思われるかもしれませんが、地域の防災意識を高め、防火・防災の土台作りにつながります。

FASTの活動-2 イベント参加

消防団フェスタに出展

昨年11月に開催された「第1回京都市消防団フェスタ」に、楽只消防分団と一緒にブースを出展しました。「防災ずきん」の展示と解説には多くの小学生が参加してくれました。



楽只消防分団長 森田武史さんに聞く



どの地域でもそうだと思いますが、消防団員の高齢化と後継者不足の問題を抱えています。若い学生さんがパトロールに参加するようになって、地域での認知度が上がってきました。学生さんが大きな声で呼び掛ける「火の用心」の効果は大きい。声を聞いた地元の若者が地域防災への関心を高め、消防団に入団してくれることを期待しています。

新人紹介

社会学部 公共政策学科1回生 向井 亮太



新聞で「FAST」の記事を読んだことがサークルを知るきっかけでした。地元消防団と協力して活動したり、災害時にボランティアとして活動したりすることは、消防関係の仕事を目指する僕にとって貴重な体験になると思いました。防災の担い手としての自覚を持てるようになりたいと思っています。

社会学部 現代社会学科3回生 村上 雄太



私は、以前から防災活動に興味がありました。授業で「FAST」の紹介があり、サークルがあることを知りました。地域の人と活動しながら防火防災の知識を身につけたい。地域の役に立てるような人間になりたいと思っています。活動に参加するのが楽しみです。

メンバーは地域防災だけではなく、京都市内で行われる防災訓練や災害ボランティアへ参加するなど大学・行政・地域と連携した活動を行っています。

FASTの活動-4 交流

防災ヒーローショーを見る

5月5日、同志社大学のFASTの防災啓発活動を見学しました。子ども向けのヒーローショーなどを披露していて、今後の活動の参考になりました。



編集後記

「佛教大学FAST」は発足したばかりの団体で、知名度も高くありません。今回の「佛大なう」は、より多くの人に私たちの活動を知ってもらいたいという思いで編集しました。今後も地域社会や他大学の学生と連携を深め、幅広い防災活動に取り組みたいと思っています。

◆佛教大学FASTでは随時参加者募集中です。地域ボランティアや防災活動に関心がある方ならどなたでも大歓迎です。問い合わせは社会連携課(紫野キャンパス1号館2階)へ。

B-ism

2015 June

災害への備えは日常的に行っておくべきこと、そう分かっているけれども実際に備えておくことは難しいものです。私たちのサークル「佛教大学FAST」では、地域社会の人々と共に防災について考え、できることから「1歩ずつ行動すること」を目標としています。

地域防災を考える学生サークル「FAST」始動!





大谷 栄一(おおたに えいいち)
1968年、東京都生まれ。東洋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了。博士(社会学)。専門は宗教社会学。主な著書に「アジアの社会参加仏教」(共著、北海道大学出版会、2015年)、『社会貢献する宗教』(共著、世界思想社、2009年)、『近代日本の日蓮主義運動』(単著、法蔵館、2001年)など。日本宗教学会賞、中村元賞を受賞。



(左から)『ブッダの変貌—交錯する近代仏教—』(共編著、法蔵館、2014年)、『近代仏教という視座—戦争! アジア! 社会主義—』(単著、ベリカン社、2012年)、『地域社会をつくる宗教』(共編著、明石書店、2012年)

表することで、社会への周知をめざしています。
社会活動の新しい方向性
現在の研究対象の一つに、浄土宗の社会活動がある。「近代浄土宗は『社会事業宗』と言われるほど、貧困者や労働者、児童、高齢者らの支援活動、セツルメント活動といった社会福祉事業を積極的に展開してきた。渡辺海旭、矢吹慶輝、長谷川良信、秦隆真ら近代の浄土宗関係者が牽引した「仏

教社会事業」を探索する中で、その伝統を継承する現代の活動に出会う。「滋賀教区浄土宗青年会の近江米一升運動」だ。滋賀県下の浄土宗寺院の「慈善事業」で、「各寺院から仏米のお下がりやを募って、それを生活困窮者に食糧支援を行っているNPO法人や慈善団体に寄贈・委託することで、現代の貧困問題の改善の一助になれば」と、2010年に始まった。大谷先生は3年前から現地を訪れ、関係者のイ

ンタビューを通して、生起のきっかけや内容を探るとともに、「地域社会をつくる宗教」の考察に挑んでいる。「地域社会と宗教の関係は、地域社会の創生や再生を考えると、極めて大きな意味を持ちます」。同時に宗教者と市民・市民団体が協働し、地域社会の新しいつながりをつくり出すこのような取り組みは、「宗教者の社会活動の新しい方向性を示唆しているのではないか」とも考えている。

活動の周知に尽力するが、すべてを肯定するものではないとも語る。「戦前、戦中の仏教者による戦争協力やナショナリズムとの関係も、当時の価値観で言えば社会貢献活動。これら負の活動も再検討することで、今後の仏教のあるべき姿や、理想的な社会活動が見えてくるかもしれない」と、期待しているのです。



社会学部現代社会学科 准教授 大谷 栄一

寺院や仏教者の仕事は？と聞かれると、たいていの人が葬式や法事といった儀礼的な「宗教活動」を思い浮かべて、それ以外は答えに窮するのではないだろうか。大谷栄一先生の研究対象は、現代社会においてとても重要な意味を持つ、宗教者たちの活動だ。

仏教という言葉は明治から
2011年3月に発生した東日本大震災は、各地に大きな被害をもたらした。今日まで国の内外を問わず、多くの人々が被災地支援、復興支援を行ってきたが、宗教者による支援の実態を知る人はどれほどいるだろう。「阪神・淡路大震

災でも多くの宗教関係者が救援活動やボランティアなどを行っていたが、マスメディアによる報道はほとんどなかった。大谷先生は長年、近現代における支援活動をはじめとした、仏教者による「社会活動」を調査してきた。本学は校名に「仏教」を冠する大学だが、そもそも仏教という言葉が現在の意

味で使われ始めたのは明治期だという。「それ以前は仏法や仏道などと呼んでいた。呼称同様に、仏教を西洋流の学問として学ぶようになったのも明治、近代以降なんです」。仏教者が行う社会活動もまた、明治になり、時代の変遷に対応し救済の教えを礎に活発化した。「福祉、教育、ボランティアから、政治活動、社

会運動、平和運動まで、活動は多様」。近代は仏教の転機だった。
震災やオウム事件に契機に
学部生時代から研究テーマは「国家と宗教」「社会と宗教」の関係。その一環として仏教者の社会活動に目を向け、たきっかけには、阪神・

淡路大震災や1980年代末から90年代中期に発生したオウム真理教による一連の事件がある。「オウム事件をきっかけに、宗教のイメージは極端に悪くなった。当時は、私の授業を受けたら『洗脳される』と思う学生がいたほどです。戦前から戦後の宗教者による政治・社会運動の研究の延長で、平和運動の分野にもフィールドを広げていきました。90年代には欧米を中心に「エンゲイジド・ブディズム研究」社会参加仏教研究」が盛り上がりを見せる。ティック・ナット・ハンやダライ・ラマ一四世らの活動の研究をはじめとして、仏教の社会活動が注目される中、大谷先生は当該研究の傍ら、2006年に同世代の研究者たちと「宗教の社会貢献活動研究プロジェクト」(現「宗教と社会貢献」研究会)を立ち上げる。「宗教者・宗教団体の活動を実証的に調査・研究し、その成果を公



貝 英幸(かい ひでゆき)

1963年山口県生まれ。佛教学文学部卒業、同大学院文学研究科博士課程満期退学。専門は流通史・外交交渉史・古文書学。主な著書 論文に「中世後期北野門前と内野」(『佛教学総合研究所紀要』、13年)、「松梅院禪宇と宮寺領の回復—所領注文作成を例にして—」(『日次紀事論叢』、岩田書店、10年)などがある。

第九回 歴史学部 歴史学科教授
貝 英幸 先生の巻

先生のお気に入り favorite
サッカーチームのユニフォーム



新しいアイデアを出すのは大変ですが、みんな自分の経験や知識を活かして頑張っています。「目線」は接し方においても大切な要素。子どもの個性や意思を尊重し、対等な立場で接するよう心掛けています。注意をするときも頭ごなしに叱るのではなく、柔らかい表現や丁寧な言葉遣いで話すことを心がけています。ミーティングも欠かさず行っていて、気づいたこと、反省点をメンバー間で共有しより良い活動にするために努めています。

サッカー観戦は、私の唯一と言ってもいい趣味。気分転換になりますし、何よりサッカーが好きなんです。中学の頃、来日したドイツのプロチームの試合を観たことから興味を持ち始めました。学生時代は部活で、教員になってからもゼミ対抗フットサル大会などで、実際にプレーもしていたんですよ。ポジションはディフェンダー。だから観戦中も守備陣のプレーに目が行きがちですね。各国の代表チームの成り立ちは、地理的・歴史的観点からとても興味深いですし、戦術やプロチームの経営方法なども国や地域ごとに特色があって、本当に面白いスポーツですよ。

コレクションのユニフォームはほとんどが海外のもの。しかも自前で購入したのは、イタリアのインテルぐらいで、それ以外は知人の旅行先からのお土産です。有名なチームよりも、あまり知られていないチームのものをお願いすることが多いかな。有名ではなくても、おしゃれなデザインのユニフォームってたくさんあるん



B-ism
2015
June

です。シンプルなデザインのもの、普段着にも使っています。日本のチームでただ一つ持っているのが京都サンガ。サポーターの背番号である12をプリントしたこのユニフォームを着て、年に数試合は必ずスタジアムに観に行きます。初めてJ1昇格を決めた試合や天皇杯で優勝した一戦は今でも忘れられません。現在は決して強豪ではありませんが、それだけに応援しがいがあります。

今は忙しくて難しいのですが、いつかはヨーロッパへサッカー観戦旅行に出かけたいと思っています。もちろん、このユニフォームを着て、首にマフラー巻いて。

いつかはヨーロッパに観戦旅行へ

サッカー観戦は、私の唯一と言ってもいい趣味。気分転換になりますし、何よりサッカーが好きなんです。中学の頃、来日したドイツのプロチームの試合を観たことから興味を持ち始めました。学生時代は部活で、教員になってからもゼミ対抗フットサル大会などで、実際にプレーもしていたんですよ。ポジションはディフェンダー。だから観戦中も守備陣のプレーに目が行きがちですね。各国の代表チームの成り立ちは、地理的・歴史的観点からとても興味深いですし、戦術やプロチームの経営方法なども国や地域ごとに特色があって、本当に面白いスポーツですよ。

です。シンプルなデザインのもの、普段着にも使っています。日本のチームでただ一つ持っているのが京都サンガ。サポーターの背番号である12をプリントしたこのユニフォームを着て、年に数試合は必ずスタジアムに観に行きます。初めてJ1昇格を決めた試合や天皇杯で優勝した一戦は今でも忘れられません。現在は決して強豪ではありませんが、それだけに応援しがいがあります。

今は忙しくて難しいのですが、いつかはヨーロッパへサッカー観戦旅行に出かけたいと思っています。もちろん、このユニフォームを着て、首にマフラー巻いて。

Hello!!

クラブ・サークル見聞録

彼は

「やさしい監督」「楽しいメンバー」「こだわりの活動内容や伝統」など、佛教学のクラブ、サークルといった課外活動団体の彼は(あれこれ)を、部員が自ら紹介、語ってくれます。

わんぱくグループ「どろんこ」



歴史学部 歴史学科 同生
宇野 智哉さん

子どもが楽しいと感じる時間を日々追求しています！

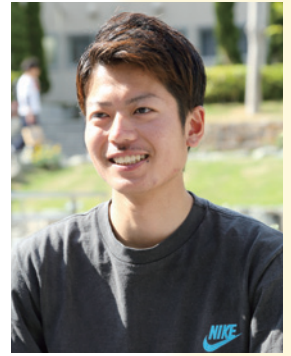
子どもたちと一緒に遊ぶことが私の活動です。ドッジボールやけん玉にはじまり、紙芝居やオリジナルのゲームといった、レクリエーションを京都市内の児童館で行っています。メンバーは現在23名。活動日は毎週土曜日です。小学校低学年が対象ですが、多い日には30名以上の児童が集まることもあります。子どもたちからは大学生が考えたゲームやおもちゃは面白い！と好評なんです。施設や保護者の方々からも感謝の言葉をいただきます。



活動日:土曜
活動場所:京都市内児童館

時にはキャンプに出かけたりと、活動の幅はどんどん広がっています。他の施設から余興の依頼を受けることもあるんですよ。ずっと感じているのは、テレビゲームなどの影響から、最近の子どもの外で遊ぶ機会が減っているという現実。週に1回でも僕たちと楽しむことで子どもたちはさまざまな経験を得られると思うんです。そんな大きなやりがいを感じながら、今日も楽しい遊びをみんなで考えています。

軟式野球部



社会学部 現代社会学科3回生
岩崎 誠人さん

「楽しみながら勝つ野球」でリーグ戦優勝目指して奮闘中！

部員は2・3回生だけで34名。私を含め、ほとんどが硬式野球の経験者です。軟式と硬式ではボールの跳ね方が違うため、初めは苦勞しますが、練習を積み重ねれば徐々に慣れていきます。

監督やコーチがいないので、練習メニューは自分たちで決めます。モットーは「楽しむときは楽しむ、やるときはやる！」。去年の試合で課題となった走力アップには、チーム対抗で競うランニングベースの練習を導入しました。負けたチームにペナルティを設けるなど、ゲーム性を取り入れ楽しく課題を克服する工夫をしています。チームの士気が下がっているときは、みんなで冗談を交えるなどして雰囲気明るくするよう心がけています。チームのムードが良



活動日:月曜・水曜・木曜
活動場所:岩倉グラウンド

※5月27日(水)に、近畿学生軟式野球連盟春季リーグ戦で優勝し、8月に行われる第38回全日本大学軟式野球選手権大会への出場が決定しました。

いのは、部員の豊かな個性があってこそですね。春と夏に行う合宿では実践練習を中心に、リーグ戦に向けて個々の能力やチームの団結力の向上を図っています。その成果もあり、試合中メンバー交代をしてもチーム力は衰えません。

現在開催中の春のリーグ戦。優勝すれば全国大会に出場できます。私たちは試合前、験担ぎとして陣を組む「あいっすお作文」を作っているんですよ。みんな笑って、リラックスしてから試合に臨んでいます。現時点でチームは1部リーグ2戦中2勝0敗。今まではあまり勝ったことがない優勝候補の2チームに勝利したので、この勢いに乗りつつ、今後は連係プレーの強化など新たな課題にも取り組まれます。そして、20年ぶりとなる全国大会出場を果たすべく、リーグ戦優勝を目指して日々楽しみながら頑張ります。

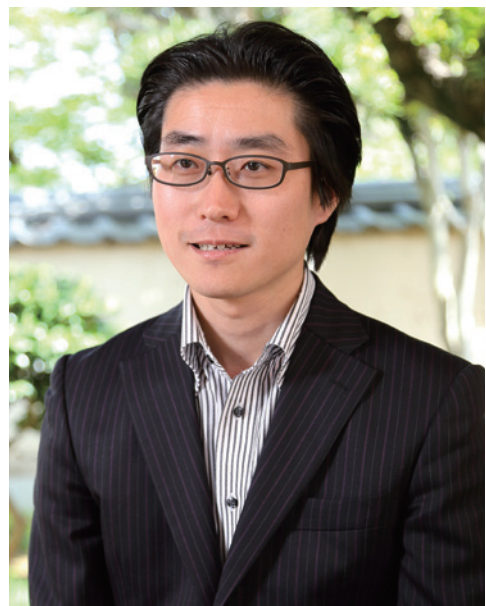
子どもと家族に 楽しい「非日常」を

一般社団法人 奈良親子レスパイトハウス事務局長
川口 雅嗣さん

佛敎大学通信教育課程社会学部応用社会学科卒業

川口 雅嗣(かわぐち まさつぐ)

奈良市内のギター教室で講師を務めながら、1996年佛敎大学通信教育課程社会学部応用社会学科へ入学、2003年卒。卒業後は、12年間に渡って通信の在学生在に学習に関するアドバイスを行う学習サポーターを務めた。大阪市立図書館、奈良県立図書館で司書として勤務した後、2012年から現職に就く。



ハウス運営を一手に担う

奈良の東大寺境内の一角に、川口雅嗣さんが働く「(一社)奈良親子レスパイトハウス(以下、ハウス)」はある。「静かな雰囲気、のんびり過ごせます」。畳の香りや庭の趣きが素敵な、情緒溢れる日本家屋だ。ハウスは2010年に設立。難病や重い障害を持つ子どもと家族が一時、介護の日常から離れ、歴史や自然、地元料理を楽しみながら過ごす、非日常の時間と空間を無料で提供している。これまで招いた家族は50組。「主治医の方も一緒に、日帰り、もしくは宿泊で利用していただきます。食事等のお世話はボランティアが担当します」。

事務局長である川口さんは、ハウスの運営を一手に担う。「部屋の掃除



域でも設立の動きがはじめています」。

現在は、厨房の設置などハウスの一部改装を計画している。「よの心地の良い空間作りを目指し、気付いたところから一つひとつ改善していきます」。

川口さんの挑戦は続く。

B-ism

2015
June



5月に新しくなった
本学のポスター

楽しく臨んだ初めてのモデル

今年5月に新しくなった本学ウェブサイトのトップページ、駅看板はご覧になっただろうか。2人の素敵な笑顔が印象的だと話題になっている。撮影は、4月初旬に紫野キャンパスにて行われた。「町田さんが緊張していたので、リラクセスできるような話題作りを心がけました」「ごえんさんのおかげで現場は終始和やかに。楽しく撮影できました」と当日を振り返るのは、モデルを務めた中川智稀さんと町田公枝さんだ。

2人は男子ラクロス部に所属。クラブでの呼名「ごえん」と中川さんは、オフエンダーの司令塔を担っている。中学・高校では野球部で部長を務めた経験もあり「人前が出る機会が多かったため、今ではめったに緊張しません」と話す。中川さんを「チームのムードメーカー」と称した町田さんは、マネージャーを務めている。水分補給の準備から練習タイムの計測、けが人の手当てなど「積極的に取り組んでくれています」と中川さんは町田さんの普段の活躍を教



社会学部 現代社会学科3回生 教育学部 教育学科2回生
中川 智稀さん 町田 公枝さん

えてくれた。

モデルになったきっかけは、新入生を迎える紫標祭でクラブの勧誘をしているときに「笑顔が良い」と本学職員から声をかけられたこと。中川さんは「なかなか経験できないことなので、良い機会になりました」と話した。

理想の教師像を思い描き、日々邁進

2人は教員免許の取得を目標にしている。町田さんの夢は小学校教師。きっかけは、自身が小学生のときに憧れていた教師の存在だ。生徒とまっすぐに向き合う姿勢に惹かれました。高校時代、本学教育学部の評判を聞き、受験。授業で学んだ「自力で見つけた答えだけが将来に活かせる」という教えに倣い、子どもが自発的に物事に取り組みめるよう指導・サポートできる教師を目指している。今後は子どもと接する経験を積むため、京都の小学校で授業のサポートや、子どもの相談にのる学校ボランティアへの参加を予定している。「現代の子どもが何を考えているのかを学びたいです」。

一方、中川さんの夢は高校の教師になって野球部の顧問になること。ゼミでは「人の意識の違い」について学んでいる。「物事の捉え方は人それぞれですが、多角的な見方をすることで他者の考えに一定の理解を持つことができます。広い視野を持ち、子ども一人一人の立場に立てる教師になりたいです」。そのためにまず必要なのは「専門分野である公民や地歴の知識を蓄え、信頼を得ること」と話す。また、教師同士の信頼関係の重要性も学んだ。「責任や悩みを一人で抱え込まず、他の教師と分かち合うことが大切。そのためには、情報共有を含めた教師同士の密な連携が必要だと教わりました」。ラクロス部でも積極的にチームメイトと意見を交わし、実践に役立つ能力を日々養っている。

ビジュアル同様に、終始笑顔で取材に応じてくれた2人。充実した学生生活ふりと、夢に向かって突き進む心意気がひしひしと伝わってきた。

から食事メニューやイベントの考案、会計、広報まで何でもやります」。案内パンフレットの作成や境内を散策する際に利用者に使ってもらおう「鹿せんべいホルダー」の手配なども行っている。

やりがいと使命感を持って接する

本学で司書の資格を取得し、卒業後は図書館に勤めていた川口さん。ハウスでボランティアをしていた母親の勧めもあり、転職。「法人運営はもちろん、福祉や医療、看護の知識は全くなかったがすべて独学で学んできた」。

利用者とは奈良公園内を歩く際には、昆虫や植物の話など、前職で培った知識で場を和ませることも。「お子さんの嬉しそうな表情や、ご家族からの感謝の手紙に大きなやりがいと使命感を感じます」。ハウスの評判は

口コミで広がり、県内外から利用者が増え続けている。

目標は同種ハウスの全国普及

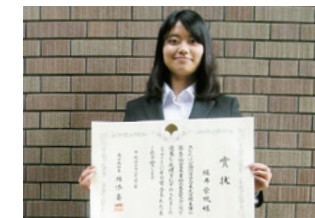
ハウスの運営費は、理念に賛同する会員の年会費と寄付金で賄われている。「会員の中には大学時代の友人も多数。福祉関係の仕事をしている人もいてアドバイスをもらっています」。また、地元地域の方にもハウスの活動を知ってもらうため、近隣にある商店や企業を訪問。活動内容や考えの理解を得る中で、食材の提供などさまざまな支援を受けるに至った。

今後の課題は、サービスの質を保ちながら運営コストをいかに抑えるか。「同じような施設を増やすためには、運営のハードルを下げる必要があります」。ハウスを成功事例に、全国普及させるという夢がある。「他地域でも設立の動きがはじめています」。

第51回全日本書初め大覧覧会で 東京都知事賞と日本武道館奨励賞を受賞!

1

「第51回全日本書初め大覧覧会」公募の部において、応募作品8,939点の中から、堀井紫帆さん(中国学科3回生)が「東京都知事賞」を、丁磊さん(日本文学科3回生)が「日本武道館奨励賞」を受賞しました。



「東京都知事賞」を受賞した堀井紫帆さん



「日本武道館奨励賞」を受賞した丁磊さん

堀井さんは明の王鐸の作品を半切の画仙紙に臨書した作品「丁磊さんは行書の細字の古典作品を半切の画仙紙に臨書した作品です。授賞式は、2月22日に東京のホテル・グランドパレスにて開催されました。

歴史学部発展科目 「祇園祭研修」が進行中!

2

「祇園祭研修」を受講する学生が7月の祇園祭本番に向けて、学びを一層深めています。祇園祭研修は、日本三大祭の一つである祇園祭の歴史と民俗について学び、「綾傘鉾(あやがさほこ)」の運営にも携わることができる歴史学部の授業です。学生はチマキ作りや山鉾巡行にも、ボランティアスタッフとして参加します。



昨年の祇園祭での様子

「TWINKLE JOYO 2014」で 美術部がデザインしたイルミネーション作品を展示

6

昨年12月1日から25日まで、城陽市総合運動公園にて開催された「TWINKLE JOYO 2014」で、美術部がデザインしたイルミネーション作品が展示されました。社会連携センターが行っている公共施設活性化プロジェクトのつながりから、城陽市にある近畿ガスグループより依頼を受けデザインされたものです。高さ6.3m、幅5.4mの大作で、電球の取り付け作業などは美術部・本学職員・近畿ガスグループ会社との関係者の方で行いました。12月1日に行われた点灯式では、56万個のLEDで飾られた作品の中で結婚式も行われ、美術部がデザインした「希望」というタイトルの作品がひととき大きく輝き、花を添



「京都から発信する政策研究交流大会」にて 社会学部生が優秀賞を受賞

3

昨年12月7日にキャンパスプラザにて開催された「第10回京都から発信する政策研究交流大会」で、社会学部の学生グループ2組が優秀賞を受賞しました。優秀賞を受賞した発表は、社会学部現代社会学科の栄村晴香さんが代表を務めた「同性愛の現状とこれから」と、社会学部公共政策学科の山田篤志さんが代表を務めた「高知県庁おもてなし課への調査とそれによる考察です。10回目を迎えるこの大会は、政策系を中心とした学部や学科の学生らが日頃の研究成果を発表するもので、今回は9大学64組の発表の中から受賞しました。



4

前田彩里選手(2014年社会学部卒)が 世界陸上女子マラソンの 日本代表に!

前田彩里さん(タイハツ陸上競技部)が、8月に北京で行われる第15回世界陸上競技選手権大会の女子マラソン日本代表に選ばれました。前田選手は3月8日に行われた名古屋ウイメンズマラソンにおいて、転倒しながらも日本歴代8位となる好タイムでゴールし、日本人最高の3位という結果でした。佛教大学陸上競技部時代には、全日本大学女子駅伝対校選手権大会でチームの2連覇に貢献。4回生時には女子中長距離部門の主将を務め、昨年1月の大阪国際女子マラソンで日本学生記録を樹立しています。



名古屋ウイメンズマラソン3位でフィニッシュする前田選手。毎日新聞社提供

ネパール大地震で 学生が募金活動を 実施

7

4月25日に発生した地震により大きな被害が出ているネパールの災害に対して、宗教情報教育に携わる学生サポーター「カルヤナミトラ」と、社会連携センター学生ボランティアの両学生が中心となり、寄附しました。

5月7日から15日まで復興支援のための募金活動を紫野キャンパスで行いました。

寄せられた募金(178,679円)は5月22日、両団体の学生代表が日本赤十字社に持参し、寄附しました。

「大宮応援隊」が東北支援の 物産展を開催

8



地域福祉フィールドワークで、地域の防災活動に取り組んでいる学生団体「大宮応援隊」が、東日本大震災に向き合う機会を再び作りたいとの思いで、一般社団法人「希望の環」と任意団体「つながり大作戦」と共同で、2月7日・11日に東北物産展を紫野キャンパスで開催しました。当日は、石巻で生産されたサバの缶詰や山ぶどうサイダーなどを販売しましたが、準備していた品物はほとんど売り切れの状態となりました。また、横断幕を用意し、東北の方たちへ向けてたくさんのメッセージを書き込んでいただきました。この横断幕は学生により、被災地の方へ直接届けられました。

硬式野球部

9



京滋大学野球連盟春季リーグ戦の第7節、ともに勝ち点4で並ぶ京都学園大学に敗れ2位となり、3季連続のリーグ制覇を達成することができませんでした。秋季リーグ戦では優勝をめざし一層頑張りますので、応援よろしくお願ひ申し上げます。

2015年度京滋大学野球連盟春季リーグ戦結果…2位(8勝3敗)

4月からの 人事について

10

2015年4月1日より以下の通り、学長・副学長・学部長が就任いたしました。

- 学長 田中 典彦
- 副学長 並川 孝儀
- 中原 健二
- 教育学部長 篠原 正典
- 社会学部長 近藤 敏夫
- 社会福祉学部長(再任) 渡邊 保博
- 保健医療技術学部長 漆葉 成彦

教育学部  川村 覚昭 (教授) 教育学科 教育哲学、教育人間学、仏教教育学	歴史学部  水田 大紀 (准教授) 歴史学科 イギリス近代史	文学部  田中 和也 (講師) 英米学科 イギリス文学 (特にJoseph Conrad)	仏教学部  市川 定敬 (講師) 仏教学科 浄土学
 加藤 邦彦 (教授) 日本文学科 日本近現代文学、特に近現代詩	 二澤 善紀 (講師) 教育学科 数学教育学	 吉川 明守 (教授) 教育学科 特別支援教育	2015年度 教員・職員 新規採用者紹介 教員は学科と専門を、職員は所属を表記 ※特別任用教員は学科表記なし
 月岡 卓也 (特別任用教員) 代数学、幾何学、素粒子理論物理学	 真栄城 輝明 (特別任用教員) 心理臨床学、内観療法学	 藤井 正俊 (特別任用教員) 数学(関数解析学)	 近藤 日出夫 (教授) 臨床心理学科 犯罪心理学、非行臨床心理学
社会福祉学部  井上 洋平 (准教授) 社会福祉学科 発達心理学、保育・療育の指導	社会学部  作田 誠一郎 (准教授) 現代社会学科 犯罪社会学、教育社会学	 藤木 美江 (特別任用教員) 統計科学(統計的推測)、統計教育	 保田 直美 (特別任用教員) 教育社会学
 宮本 泰子 学生支援部 進路就職課	 新谷 萌 生涯学習部 通信学生課	 永井 英夫 (実習指導講師) 看護学科 成人看護学(急性期)	 河田 光博 (教授) 理学療法学科 神経内科学
 吉見 憲一 (講師) 現代社会学科 情報社会学	 三沢 徳枝 (特別任用教員) 家庭科教育	職員 西口 美佐 総務部総務課	保健医療技術学部  趙 崇来 (助教) 看護学科 成人看護学(急性期)

2014年度退職教員		
仏教学部 田中 典彦(仏教学科 教授)	竹内 明(教育学科 教授) 田中 圭治郎(教育学科 教授)	高田 公理(現代社会学科 教授) 松永 寛明(現代社会学科 講師)
文学部 坪内 稔典(日本文学科 教授) 森谷 峰雄(英米学科 教授) Robert Latta(英米学科 教授)	奥野 哲也(臨床心理学科 教授) 東山 弘子(臨床心理学科 教授) 栗山 憲(特別任用教授) 剣持 信幸(特別任用教授) 鈴木 正彦(特別任用教授) 砂田 信夫(特別任用教授) 丹後 弘司(特別任用教授) 森田 陽子(特別任用教授)	社会福祉学部 里見 賢治(社会福祉学科 教授) 中田 智恵海(社会福祉学科 教授) 所 めぐみ(社会福祉学科 准教授)
歴史学部 清水 稔(歴史学科 教授) 川北 稔(特別任用教授)	鈴木 正彦(特別任用教授) 砂田 信夫(特別任用教授) 丹後 弘司(特別任用教授) 森田 陽子(特別任用教授)	保健医療技術学部 中野 裕之(理学療法学科 教授) 野村 巖(理学療法学科 教授)
教育学部 白石 克己(教育学科 教授) 菅原 伸康(教育学科 教授)	社会学部 君塚 大学(現代社会学科 教授)	福祉教育開発センター 杉原 努(実習指導講師) 西垣 美穂子(実習指導講師)

第8回佛教大学 小学生俳句大賞 結果発表



全国の子どもたちに、言葉の楽しさを体験してもらいたいとの願いで始まった「佛教大学小学生俳句大賞」。8回目となる今年は、41,921句の応募をいただきました。厳正な審査により、入賞した作品を紹介します。



高学年最優秀賞

指揮する手夏の大三角形だ

宮城県 仙台市立吉成小学校 4年 横溝 麻志穂



低学年最優秀賞

つばきカフエめじろの間ではやっこる

京都府 京都教育大学附属京都市小中学校 2年 福井 玲佳




- 先生の散髪姿夏本番**
東京都 新宿区立戸塚第1小学校 6年 矢澤 希望

こたつの中ぼくは領土を確保する
大阪府 茨木市立畑田小学校 6年 藤枝 二広

クリスマスこの日はかりはまだ子供
大阪府 堺市立少林寺小学校 6年 郡 ほか

鹿接近ぼくをたてにし母にげる
兵庫県 伊丹市立伊丹小学校 5年 白川 瑞久

お正月期間げん定大家族
鹿児島県 鹿児島市立山下小学校 3年 中島 杏

ゆきだるまいししのぼたんがおきにいり
長野県 飯田市立上郷小学校 2年 牧田 七海

何年生何度も聞くよおぼあちゃん
兵庫県 伊丹市立笹原小学校 3年 田口 和沙

このぼりじいちゃんごいはないのかな
京都府 京都市立常盤野小学校 1年 伊藤 碧月

優秀賞

■尾池 和夫
大阪府 大阪市文鶴小学校 3年 秦 友香

■青空が大きく見えた運動会
神奈川県 葉山町立葉山小学校 4年 須田 匠

■坪内 稔典
愛媛県 伊方町立三崎小学校 3年 梶原 泰心

■私より大きくなった雪だるま
広島県 世羅町立せらし小学校 6年 上本 吉乃

■原 清治
茨城県 高萩市立東小学校 3年 星 奈都紀

■くつひもをキョット結んで春駆ける
京都府 立命館小学校 5年 柏木 美紅

■原田 敬
京都府 京丹後市立大宮南小学校 3年 糸井 泰平

■あさがおやいもはやおきええ子やな
京都府 貝塚市立南小学校 5年 瀬戸 優羽

■山極 伸之
兵庫県 伊丹市立南小学校 3年 池田 拓

■お父さんやっぱり飲むよね雪見酒
神奈川県 鎌倉市立大船小学校 4年 鳴嶋 大起

■山本 純子
和歌山県 みまべ町立上南小学校 2年 前山 愛瑠

■こがらしいばつてみえるぼくのいえ
愛知県 尾張旭市立浜川小学校 4年 山田 秋月

選考委員特別賞

- 尾池 和夫
大阪府 大阪市文鶴小学校 3年 秦 友香
- 青空が大きく見えた運動会
神奈川県 葉山町立葉山小学校 4年 須田 匠
- 坪内 稔典
愛媛県 伊方町立三崎小学校 3年 梶原 泰心
- 私より大きくなった雪だるま
広島県 世羅町立せらし小学校 6年 上本 吉乃
- 原 清治
茨城県 高萩市立東小学校 3年 星 奈都紀
- くつひもをキョット結んで春駆ける
京都府 立命館小学校 5年 柏木 美紅
- 原田 敬
京都府 京丹後市立大宮南小学校 3年 糸井 泰平
- あさがおやいもはやおきええ子やな
京都府 貝塚市立南小学校 5年 瀬戸 優羽
- 山極 伸之
兵庫県 伊丹市立南小学校 3年 池田 拓
- お父さんやっぱり飲むよね雪見酒
神奈川県 鎌倉市立大船小学校 4年 鳴嶋 大起
- 山本 純子
和歌山県 みまべ町立上南小学校 2年 前山 愛瑠
- こがらしいばつてみえるぼくのいえ
愛知県 尾張旭市立浜川小学校 4年 山田 秋月

入試に関するお知らせ

オープンキャンパス

[日時] 7月19日(日)、8月1日(土)・2日(日)、10月11日(日) [場所] 紫野キャンパス・二条キャンパス同時開催

公募制推薦入試

試験日	出願期間	試験会場
11月24日(火)・25日(水)・26日(木)	11月1日(日)～11月7日(土)	本学(紫野キャンパス)・金沢・名古屋・彦根・舞鶴・大阪・神戸・奈良・和歌山・岡山 ※11月26日(木)は本学・大阪のみ実施

通信教育課程に関するお知らせ


BUまなび隊(公開講演会)開催予定 BUまなび隊は通信教育課程が開催する地方オープンキャンパスの呼称です。

日程	都市	会場	講演内容	申込方法
8月30日(日) 13:00～15:30	大阪	大阪市中央公会堂	●テーマ:「教育と共生」 基調講演講師:藤原 和博氏(教育改革実践家、杉並区立和田中学校・元校長) パネリスト:藤原 和博氏・田中 典彦学長・藤松 素子生涯学習機構長 コーディネーター:原 清治教育学部教授	7月中旬に通信教育課程HPに掲載予定

「特例制度」による幼稚園教諭免許状及び保育士資格の取得について

通信教育課程に「特例制度」による、幼稚園教諭免許状及び保育士資格取得のための課程を開設しています。詳細は、佛敎大学通信教育課程 HP をご覧ください。

宗教文化ミュージアム イベントカレンダー(2015年6月～12月)



宗教文化ミュージアム
宗教文化に関する有形・無形文化財の調査・資料収集および保存・公開、宗教文化情報の高度利用化などを行い、その成果を広く公開しています。

開館時間 10:00～17:30(※入館は17:00まで)
入館料 無料
休館日 ホームページ等でご確認ください

アクセス

- JR京都駅より京都市バス、「山越」より徒歩13分
- 三条京阪前より京都市バス、「山越」より徒歩13分、「広沢池・佛大広沢駅前」すぐ
- 佛敎大学紫野キャンパスより京都市バス、「山越」より徒歩13分、「広沢池・佛大広沢駅前」すぐ

お問い合わせ先 宗教文化ミュージアム
〒616-8306 京都市右京区嵯峨広沢西裏町5-26
TEL:075(873)3115 FAX:075(873)3121

開催中～6月28日(日)	春期特別展 「お念仏のかたち」
6月27日(土) 14:00～ 要事前申込 有料公演 鑑賞料:500円	第28回シアター公演 「雅楽 — 平安のみやび —」 出演:いちひめ雅楽会 解説:佐古 愛己(本学歴史学部准教授、本館研究協力者)
7月13日(月)～10月3日(土)	常設展(大学史展示)「佛敎大学ゆかりの先生」
8月29日(土) 14:00～	シアター上映会「大峰修験の世界」 講師:齊藤 純氏(天理大学文学部教授)
10月24日(土)～11月23日(月・祝)	秋期特別展(東日本大震災復興支援)「海を渡った祈りと踊り — 袋中上人とエイサー —」
10月31日(土) 13:00～	秋期特別展関連講演会「袋中上人 — その人とゆかりの美術 —」 講師:[基調講演] 信ヶ原 雅文氏(檀王法林寺第27住職、だん王子の家長理事) [講演] 石川 登志雄氏(伝統文化財保存研究所代表)、藤堂 俊英(本学仏敎学部教授) 松永 知海(本学仏敎学部教授、本館研究協力者) [展示解説] 植村 拓哉(本館学芸員)
11月7日(土) 13:00～ 要事前申込	第29回シアター公演(東日本大震災復興支援)「念仏踊りの道 — エイサー・じゃんがら・六斎念仏 —」 出演:平敷屋エイサー保存会(うるま市指定無形民俗文化財)、警城じゃんがら遊劇隊 嵯峨野六斎念仏保存会(国重要無形民俗文化財) 解説:園原 謙氏(沖縄県立博物館・美術館学芸員)
12月7日(月)～12月19日(土)	常設展(大学史展示)「佛敎大学ゆかりの先生」

紫野キャンパス新1号館の紹介はいかがでしたでしょうか?
きれいで快適なキャンパスに変わっていくのは喜ばしいことですが、なじみのある場所や建物がなくなってしまうのは卒業生にとってさみしいものです。ですので、新しい1号館には、入り口の法輪や中庭のレンガなど、旧キャンパス時代からの「つながり」が感じられる工夫も施されています。紫野キャンパスでは建物の配置や高さが変わったことで、今までは見えなかった場所から左大文字山が見えるようになりました。大学から見えるこの景色も「つながり」を感じさせるひとつのかもしれない。 佛敎大学広報課

B-information
みんなの掲示板
2015年 主な行事予定

Date 7/11 (sat.)
13:30～16:00

法然仏敎学研究中心講義
「どうして私に一枚起請文が分かるようになったのか」

- 講師:村上 真完氏(東北大学名誉教授)
- 参加申込不要、入場無料
- 場所:佛敎大学紫野キャンパス 常照ホール(成徳常照館5階)
- *12:30～受付開始

Date 9/27 (sun.)

学位記卒業修了証書授与式(9月卒業修了)

Date 10/23 (fri.)

創立記念日

Date 10/30 (fri.)～11/1 (sun.)

第49回鷹陵祭(学園祭)

Date 11/1 (sun.)

ホームカミングデー
佛敎大学の同窓生を対象として開催します。学問に課外活動に、青春時代を過ごした大学に、ぜひお越しください。

ピックアップ ニュース

「B-ism」の発行が10号目を迎えました

2010年に発行が始まった佛敎大学広報誌「B-ism」。今年で10号目を迎えることができました。この約5年の間に、学部学科の改組や新設、二条キャンパスの開校、開学100周年など様々な出来事がありました。

これまで発行されたB-ismは、ホームページでも閲覧いただけます。ぜひご覧ください。



2010年(平成22年)発行の創刊号

毎号フレッシュで読み応えのある特集ページ

アドレス⇒<http://www.bukkyo-u.ac.jp/about/publicity/>

トップページ ➡ 大学紹介 ➡ 大学広報

読者プレゼントの佛大オリジナルグッズをプレゼントいたします。同面添付のアンケートハガキにてご応募ください。

お知らせ

5名様 佛米! 夢乃酒2014 火入れ (720ml)

10名様 「ぶったん」のふせん & ビニール巾着

※「佛米! 夢乃酒」へのご応募は20歳以上の方に限らせていただきます。

佛敎大学オリジナル日本酒 「佛米(ぶっこめ)! 夢乃酒2014」が完成

2008年から続いている酒づくりプロジェクト。京都府美山町での酒米の田植えから、収穫・醸造を経て、今年3月に完成しました。3月4日～10日には、京都駅にあるJR京都伊勢丹で販売プロジェクトも行いました。「佛米! 夢乃酒2014」は、左記の店舗で販売中です。

【佛米! 夢乃酒】純米吟醸(26BY)
製造元 招徳酒造株式会社
●純米吟醸(無濾過生原酒) 720ml 1,620円(税込)
●純米吟醸(火入れ) 720ml 1,512円(税込)
●純米吟醸(火入れ) 300ml 712円(税込)
※300mlは細見酒店でのみ販売

取り扱い店舗

- 細見酒店(TEL.075-491-8743)
※インターネット販売も有り
<http://www6.ocn.ne.jp/~kitaru/>
- 円町 島酒店(TEL.075-463-7166)
- リカー&フーズまたの(TEL.075-781-9010)
- 山岡酒店(TEL.075-461-4772)